

エッセイ Essay



「これが私の使命!」

通訳・翻訳ボランティア
福井 レイディ オスティン

私は豊橋市近隣に住むフィリピン人のために、日本語とタガログ語の通訳・翻訳ボランティアをしています。

初めて豊橋に来たのは2004年の時。お金がなくて大学を中退することになり、私にできることは何だろうと考えて、他のフィリピン人と同じように家族のために日本に来ることを決意しました。その時は半年で帰国しましたが、滞在中に出会った日本人の夫と結婚し、2006年に再来日しました。

日本で暮らすことが決まり、日本語を勉強しましたが、実際に日本に来てみると、友達もいなくて、またあまり日本語がわからず不安でした。キリスト教の教会に通うようになって、「いのり」などの日本語がわからず、辞書で調べて勉強しました。派遣で工場に勤めるようになって日系ブラジル人やフィリピンなどの友達ができてからは日本語で会話をする機会が増え、会話を通して勉強するのが楽しくなり、だんだん日本語が上達しました。

しかし、妊娠し出産した時、病院の手続きや専門用語が難しくわからず、授乳の方法なども見よう見まねで学んだり不安に思うことが沢山ありました。夫のサポートはありましたが、仕事を休んで付き添ってくれるので、迷惑をかけないように自分でできると強がることもありました。その時にサポートしてくれたのが教会の日本人の家族です!車で病院まで送迎をしてくれて、検診時なども私に付き添い、難しい日本語も辞書で英語に訳し教えてくれました。とても嬉しく感謝しています。

フィリピンでは、周りにいる人達はみんな家族、お互いに助け合います。私も困っている人のために力になりたいと、教会にいる時に自然と通訳をしたり、友人から助けを求められて同行し通訳をしたりするようになりました。はじめは難しい専門用語がわからず、私も勉強することばかりでしたが、経験する内に色々なことがわかるようになりました。依頼内容は、タクシーの呼び方から、入関でのビザ取得の手続き、

通院の付き添いなど様々です。今では、「レイディさんなら助けてくれるから!」と口コミで広まり、友人の友人からも通訳を頼まれるようになりました。

豊橋に住むフィリピン人は年々増えていますが、日本語がわからず不安に思っている人も沢山います。保育園の入園手続きや制度があることを知らず、保育園に通っていない子どもや、親が日本語を話せないため、小学校に入るのにひらがな・カタカナが読めない子どももいます。また、親を助けるために中学校を卒業した子どもが工場で働くことを決めています。若い人たちには未来があります。日本語が分かれば進学もできるし、工場以外の仕事に就くこともできるのに…。私も日本語がわからなくて不安でしたが、一歩踏み出せば自信もつき、日本語を勉強すれば世界が変わると思います。

通訳の依頼が増えて「お金にならないのに何をやっているのだろう。」と思う時もありました。でも通訳を通して様々な経験ができるのは楽しく、何よりも困っている人が笑顔になってくれることが嬉しいです!今では「これが私の使命なんだ!」と思っています。このような経験ができて神様に感謝しています。

これからも私の時間が許す限り、困っている人を助けていきたいです。そして、日本語を勉強する大切さもあわせて伝えたいと思います。



出産前から付き添いし、定期検診に通う母子と共に